

コッパン&ジャム

パン…ごはんが給食に出されるようになったのは昭和51年から。それまでは毎日食パンやコッパンの給食でした。



ミルク(脱脂粉乳)

脱脂粉乳…粉ミルクをお湯で溶いたもので、保存性が良く、栄養価が高い。昭和40年代ごろまで供給されていました。

なつかしの学校給食

～昭和27年ごろのメニュー～

提供／(独)日本スポーツ振興センター



せんキャブリ
と鯨肉の竜田揚げ

鯨肉…今でこそ高級な鯨肉ですが、昭和50年代までは、高タンパクで低カロリーな学校給食の定番メニューでした。

学校給食の歴史と大切な役割

日本で初めての給食は明治22年、山形県鶴岡町(現鶴岡市)の小学校で、当時、お弁当を持ってくることのできない子どもたちに、おにぎりとおかずを出したのが始まりでした。

昭和7年から栄養面や格差是正のために全国各地で給食が開始されますが、昭和19年、戦中の食料不足で中断。戦後は困難な食料事情のもとで、学校給食は絶大な支持を得ながら、より広く実施されることが求められていきます。

やがて、海外からの小麦粉や脱脂粉乳、缶詰などで試験給食が開始され、給食実施率は昭和21年に23%だったのが4年後の昭和25年には69%に達するなど、全国的に普及拡大。昭和29年には「学校給食法」が制定され、現在に至る基本的な枠組みが定められました。この法律では、学校給食が「栄養補給」だけにとどまらず「学校教育活動の一環」として位置づけられています。当時「食育」という言葉はあまり使われていませんでしたが、戦後の学校給食は、まさに食育を推進する観点から再出発したのでした。

食を遡る

懐かしい食材、新しい献立など常に時代を映してきた給食。今も昔も欠かせない存在です。

子どもたちの心身が最も発達する大切なこの時期、学校給食は必要な栄養を満たしつつ、教育の一環として、さらに一人ひとりが正しい食習慣を身につけ、将来的な「食育」へとつなげていく重要な役割を果たしています。



→今よりも随分大きなコッパンが出されていた昭和33年の給食。(提供／(独)日本スポーツ振興センター)

世代別リサーチ

あなたの好きな給食メニューは？

ミートソースで食べる袋に入った「ソフト麺」がおいしかったです。

家とは違う「甘い肉じゃが」が大好き！



大人の意見

- ▼「冷凍みかん」が大好きでした。家ではないので、なんとなく特別な感じが良かったです。(20代・女性)
- ▼週1回ごはんの日があり、わかめごはんが人気でした。(30代・男性)
- ▼給食といえは「揚げパン」。欠席があると、じゃんけんで奪い合いになっていました。(40代・男性)
- ▼たまに出る「レーズンパン」がうれしかったですね。(50代・女性)

子どもの意見

- ▼「うどん」がおいしいです。汁も残さず全部食べます。(小3・女子)
- ▼家の「カレー」もおいしいけど、学校で食べる「カレー」はもっとおいしいので大好きです。(小4・男子)
- ▼「キムチ豚汁」。からいけど、元気がわいてきます。(小6・男子)
- ▼給食で出る甘い味付けの魚が、おいしいと思います。(中2・女子)

第一章 学校給食

子どもたちの毎日の「食」の一つ「学校給食」。

9年間慣れ親しむ給食の味は、
「お袋の味」に匹敵する「思い出の味」。

みんなでわいわい給食を囲むひとは、
今も昔も、学校生活の楽しみの一つです。



食

食べることは、生きること。

全校児童と一緒に給食を食べることができるランチルームは、上野小だけの特徴。5月12日のおかずはマーボー春雨といかの天ぷら、福智産のミニトマトでした。



栄養士の一口メモ
桑野 優子 栄養士

テストの日の朝には「バナナ」がピッタリ！
「バナナ」は栄養価が高く、短時間で脳に栄養が行き届き、頭がさえます。